東信化学工業 株式会社

トウシンカガクコウギョウ

専務取締役　営業本部　本部長
久野 智孝 ひさの ともたか

PROFILE
1982年9月、東京都生まれ。大学卒業後、株式会社ヤナセを経て東信化学工業株式会社に入社。製造部、営業部を経て2018年常務、2024年専務取締役に就任。次期トップとして新製品や工場新設、社内改革に取り組む。趣味はバスケットとジョギング。

新たな価値の創出に挑戦する、ポリエチレンのパイオニア。

高い技術力を武器に包装材を開発・提供

東信化学工業は、ポリエチレン製のレジ袋や包装材、シートからオリジナルの抗菌性や消臭性の高い機能製品の製造・販売を行っています。祖父である創業者、久野信雄は10代のときに就職で福井から東京へ上京。その後、単身で渡米してポリエチレンと出会い、機能性に目をつけました。帰国後、一斗缶に入れた飴が紙に付着してロスになると聞き、紙の包装より便利なものがあると新素材の包装を提案。製造機器を輸入し、国内でオリジナル機器を作り、いち早く1952年に江戸川区でポリエチレン製品の製造を開始。高度成長期のニーズに応え、ポリエチレンのパイオニア、「技術の東信」と評価され、企業として成長。営業活動をしなくても、製品力で顧客の信頼と支持を獲得してきました。真面目で研究熱心だった祖父は、その堅実さから無借金経営を徹底。従業員には家族同様に接する社風でした。

食を支え環境を守る新たなる挑戦

時代と共に製品やお客様も変わった2000年代、企業として転換期を迎え、新たな製品開発、設備の見直し等を行いました。2020年に茨城県に防塵・防虫対策など衛生管理を追求した新工場が完成。コロナ終息後、工場を見学された食品関連の企業から安全性の高さを支持いただき、受注・売上が増大。工場の稼働率は100%で、AIカメラの先端技術により全製品を検品する新工場の建設も進行中です。海洋ごみなどの問題から脱プラスチックが叫ばれていますが、フードロスへの影響を考えるとポリエチレンの需要は今後も続くはず。ニーズに応え衛生管理の精度をさらに高め、製品の新たな価値を創出。他社との差別化を図り、競争力を高めていきます。

一方で、時代に合う製品作りの使命も感じます。環境適応型の製品として植物由来の原料から作ったナチュラポリシリーズ、有機性資源が原料のバイオマス製品がありますが、さらに新製品を企画中です。原料に石灰石を採用、ポリエチレンとしてのスペックは変わらず、原料・二酸化炭素の排出量は半分、使用後は最長2年で自然に返る画期的なもの。世の中の不便さや問題を解決することで人に喜ばれる製品を作るという、製造業としてものづくりの原点回帰への想いも込め、持続型社会での新スタンダードを目指します。製品を通じた地域貢献にも取り組んでいきます。

個性を発揮して、組織力を上げていく

現在、社員数53名、平均年齢は30代。創業者の「社員として巡り合った人を大切に」という想いを反映し、社員と本音で話せる関係づくりを心がけています。給与体系や福利厚生も刷新、年2回のボーナスを各月の給与に振り分け、決算賞与は年1回。ランチの補助も開始、制服もカジュアルなデザインに変更。自主性を大切にしており業務ではノルマは設定せず、自分で考え行動することを徹底しようと伝え、評価時は自己アピールを重視。たとえ結果が出なくても、考えて挑戦・努力した過程を評価します。自分で考え動くことで仕事が楽しくなる。社員が同じ方向を見つめ、一人ひとりが個性を発揮し、全体のスコアを上げる体制を目指します。弊社は人としての本質を大切にお客様に向き合える方、協調性があり、自分で考え行動できる方を歓迎します。社員全員が自社の製品に誇りを感じる、新たなものづくりに一緒に挑戦していきましょう。

お揃いのTシャツで勤務する本社社員、一人ひとりのお客様への対応力の高さが自慢。毎年恒例の社員旅行も社員が計画を立てる。

本社所在地
東京
製造

所在地　〒110-0015 東京都台東区東上野1-2-3フジビル
TEL　03-6803-0925
設立　1965（昭和40）年12月
従業員数　53名
売上高　15億5,000万円［2024（令和6）年10月期］
事業内容　ポリエチレン製品の製造販売
URL　https://toshin-kagakukogyo.com/

企業公式サイト